

第2回能登半島地震対応検証委員会議事録

日 時 令和6年9月26日（木）午後1：30～3：30

場 所 射水市本庁舎 301 会議室

出席委員 10名（10名中）

次 第

1 開会

2 委員長あいさつ（省略）

3 議事

【委員長】

「能登半島地震の課題・対策案の整理」について説明を求める。

【事務局】

説明

【委員長】

事務局からの説明について、ご意見、ご質問はないか。

検証項目①住民の避難行動について

【委員】

対策案の内容について具体的に示していただきたい。

また、現在の指定緊急避難場所が何か所あるかを教えていただきたい。

【事務局】

指定緊急避難場所は、100か所である。

【委員】

避難時に車が渋滞した場合は、どこかのグラウンドを緊急避難場所にするなど検討いただきたい。

また、地域防災力の向上のため、市民が出前講座で学んだことを行動に活かせるよう努めていただきたい。

【委員】

地区防災計画の骨組みを作るワーキンググループを市で実施してはどうか。

【委員長】

地区防災計画の策定にあたっては、地域住民が参画し、地域で作ることの意識付けが必要である。

【委員】

地区防災計画の策定と絡めて「マイ・タイムライン」について考えると効果的ではないか。

【委員長】

市のハザードマップに「マイ・タイムライン」を記載してはどうか。

【委員】

市民への情報提供する内容については、市からフェーズ毎にどのような情報発信をするのか示すとの確かな行動を促せるのではないかな。

【委員】

要配慮者に対しての情報発信手段として、緊急通報装置と防災情報を連携させる等、一方だけではなく双方でやりとりができるものがあれば有効である。

また、発災時に要配慮者を運ぶ担架等を備えておけば良い。

【委員】

地域防災計画の進捗状況に応じて市は、積極的に働きかけを行うべきである。

【委員】

避難に関して、原則、徒歩と明記するのであれば、徒歩で逃げるべき指定緊急避難場所を示し、徒歩では間に合わない地域がないかチェックをお願いしたい。避難困難区域等については、県の見直しに合せて再度見直しすべきである。

市は危険な地域を見極めてサポートを順次することが必要。

避難行動については、「地震起こったら３分以内にそこまで逃げましょう」を地域の合言葉に簡潔な共通認識を持ってもらうことが重要である。

【委員長】

地区防災計画は地域の自発的な活動になるもので、その自発的な活動の背中を押してあげる手段として、地域の危険度を示せば良い。

検証項目②避難所開設・運営について

【委員】

避難時に使用する部屋等をあらかじめ決めておくとう良い。

【委員】

現在の避難所の収容人数は現状に即しているのか。

【事務局】

現状に合せて避難所の収容人数を算出するには時間を要する。

【委員】

女性のプライバシー等への配慮と女性視点の活用は大事であるが、これからの時代は、セクシャルマイノリティの方々への配慮という視点を付け加えると良い。

【委員】

避難所運営において、女性と男性の導線が交わらないようなレイアウトが望ましい。

また、女性が使用するデリケートな物資の配布については、配布にあたり一定の配慮が必要である。

【委員】

ファーストミッションボックスは設置だけではなく、どのように運用するのか事前に周知する必要がある。

【委員】

要配慮者の避難にあたり、要支援者名簿に基づき支援マニュアルを作成し、どう運用するか検討が必要。

【委員】

要配慮者の避難については、福祉施設と地域、双方が連携して取り組めると良い。

検証項目③災害対策本部の運営について

【委員】

射水市の災害対策本部が立ち上がってから72時間の動きはどうだったのか時系列で提示してほしい。

【委員】

射水市の避難所開設状況等をＬアラートで適切なタイミングで発信できていれば、市民にリアルタイムに必要な情報を発信できたのではないかな。

【委員】

計画等の見直しにあたって、複合災害の観点が必要だと考える。

検証項目④関係機関との連携、受援体制について

意見なし

【委員長】

その他で事務局から何かないかな。

【事務局】

今後のスケジュール及び備蓄状況について説明

4 閉会

【委員長】

それでは、第2回能登半島地震対応検証委員会を終了する。委員各位には熱心に審議いただき、深く感謝申し上げます。